

地域の会



▲第61回定例会（柏崎原子力広報センター）



◀第62回定例会（柏崎原子力広報センター）

CONTENTS

第61回定例会
地震後の原子力発電所の安全、
安心について意見交換 ……………2

第62回定例会
地震後の保安院の取り組み、
東京電力の耐震補強工事について ……………3

発電所を巡る主な動き
地域の会に寄せられた声「みんなの広場」……………4

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会（「地域の会」）

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

地域の会 概要

- ①会員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた24名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視
(2)事業者等への提言
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供
(4)委員の研修
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会（毎月1回）
臨時会（必要に応じて開催）
※会は、原則すべて公開。

第61回定例会

地震後の原子力発電所の安全、安心について意見交換

第61回定例会の概要

開催日	平成20年7月2日(水)
場所	柏崎原子力広報センター(研修室)
出席者	20名(欠席4名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 原子力安全・保安院 保安検査官事務所 地域担当官事務所 東京電力(株)
内容	●前回定例会以降の動き ●委員所感についての意見交換 ●その他



今回の定例会は、地震後の原子力発電所の安全・安心についてを中心に、委員同士の意見交換を行った。

【各委員の所感、意見】

◆地域の会に関して

- 保安院は、原子力発電所の定期検査の間隔を延長する方針と聞くが、地元住民や自治体の理解が得られたのか疑問。地域の会として議論し意向をまとめ、国に提言してはどうか。
- 原子炉事故の危険性が高いのは、起動時と停止時と理解している。稼働時の点検は安全なもの良いと思う。
- 地域の会は、それぞれ委員の考えが違ふのは当然で、各自が意見を述べ問題を明確にして行ける。地域の会では、地域住民の安全を担保する、前向きな議論を重点的にするべきだ。
- 最近の地域の会は、地震や地形・地質に関する議論が大変多いが、そろそろ視点を変え、地球温暖化や日本の原子力エネルギー政策、そして、そ

れらと柏崎との関係など、広いスタンスで原子力の勉強をしたい。

◆国、行政、事業者への意見要望に関して

- フランスは地震が少ないのに地震研究の先進国として活動している。日本も更に研究を推進し、地震予知を具体化してほしい。
- 原子力発電は、国策だから安全だと言われてきたが、東京電力のトラブル隠しで、地域の会が発足した経緯を考えると、原子力発電所が安全だとそのまま信じることはできない。
- 原子力発電所は必要だ。東京電力は不祥事を起こした当時に比べると、改善により情報の公開は非常に進んで来た。東京電力と国には、原子力発電所の再稼動のため、安全・安心を得るよう、一層の努力をしてもらいたい。
- 原子力発電は地球温暖化の抑止力になる。一つひとつの問題を地道に解決して行くことが、不安を徐々に解消するものだ。

- 柏崎刈羽に原子力発電所があるという現実を受け止めて行くことが課題。東京電力は、私達が大丈夫だと思えるくらい頑張してほしい。また、その努力の跡も見えるようにしてほしい。
- 中越地震、中越沖地震と続き、当然地域の会も地震に関する事柄に割く時間が多くなった。個人的には国、東京電力双方の対応は評価している。ごまかしがあれば検証される仕組みになっている。人を信じない限り世の中は成り立たない。東京電力にも国にも更に誠意を持った対応を望む。
- 耐震信頼性の実証試験場は重要で、必要な施設だ。廃止されたと聞いて驚いた。

◆地震関係に関して

- 柏崎地域の地質などを勉強し、柏崎地域が日本で最も地震の危険性が高い所のひとつで、軟弱な地盤であることを知った。原発立地には悪条件が重なっていると感じている。
- 日本はどこでも地震が起きるが、原子力発電所を全部止めるわけにはいかないと思う。今までの震災のデータを生かし、原子力発電所の建物や設備の安全を確保した上で、環境に良いことも合わせ、日本の原子力政策の推進方法を考えてほしい。
- 柏崎刈羽原子力発電所は、中越沖地震で設計値を大きく超える揺れを受けたが、「止める、冷やす、閉じ込める」の機能がきちんと働いたから、耐震補強をして、動かすという考え方で良いのか。不安である。
- 想定を超える地震が起きたことは事実だが、原子力発電所は、安全に止まった。地盤問題に関しては専門家の

- 議論や意見など全て公開されているので、専門家でない我々は、よく聞いて感想を述べる程度で良いのではないかと。
- 柏崎刈羽原子力発電所の再開には安全・安心の面からも疑問が残るが、環境や代替エネルギーの問題、地元の雇用問題なども考えれば、日本の技術のある程度信頼し、条件が整ったら再稼動も良いのではないかと。
- 今の疲弊した地域の現状を見ると、きちんとた耐震工事をして、国・県・市・村が安全性の確認をした上で、早く発電所を再開してほしい。
- 報道機関は発電所の再稼動について、納得していない人、期待している人、両方の意見をバランスよく取り上げしてほしい。
- 岩手・宮城内陸地震で、4000ガルの値が観測された所があった。原子力発電に対する安心の基準が振り出しに戻った感じがする。
- 安全を確保した上での運転再開を望む。今、東京電力には復旧に全力投球する中で、不安要素を早く見つけてほしい。そして、それをチェックするのが、地域の会の使命であると考えている。
- 柏崎刈羽原子力発電所の安全について議論をするなら、地盤が本当はどうなのかを共通のベースにしなければならぬと考える。
- 風評被害で観光客が激減したというが、原子力発電所があったからではなく、地震により地元の大勢の人が困っている場所だから、遊びに来なかったのではないのか。

【質疑応答】

Q 原子力発電所は活断層の上に建ててはならないと聞いているが、現実には

柏崎刈羽原子力発電所の直下に活断層が存在しているのではないかと。

保安院 原子力発電所は建屋の基礎マツト直下に、活動性のある断層がないことを確認した上で設置許可を行っている。

Q 原子炉圧力容器(各号機ごと)の脆性遷移温度の変化について教えてください。

保安院 脆性遷移とは、原子炉圧力容器の中性子を浴びて、脆くなる温度がだんだん高くなる現象のこと。データを整理して報告する。脆性遷移温度変化は原子炉の安全上非常に重要な問題であり厳格に見て行く。

Q 調査で、発電所前面海域でプルトニウムが検出されていることについて、温排水の方が海水より温度が高いため、排水口近くよりも沖合に拡散し、高い濃度が出ているのではないかと。また、これは核実験によるものというが、柏崎のデータと比較するため、全国各地のプルトニウム濃度のデータがあれば教えてください。

保安院 日本国内で検出されるプルトニウムは、昔の大気圏内の核実験によるものであり、全国的な環境放射能調査については、文部科学省の担当である。



第62回定例会

地震後の保安院の取り組み、東京電力の耐震補強工事について

第62回定例会の概要

開催日 平成20年8月6日(水)
 場所 柏崎原子力広報センター(研修室)
 出席者 17名(欠席7名)
 オブザーバー 新潟県、柏崎市、刈羽村
 原子力安全・保安院
 保安検査官事務所
 地域担当官事務所
 東京電力(株)
 内容 ●前回定例会以降の動き
 ●国のワーキンググループの内容説明(保安院)
 ●耐震補強工事の説明(東京電力)
 ●委員意見交換
 ●その他



中越沖地震後における原子力安全・保安院の取り組みについて及び東京電力の柏崎刈羽原子力発電所の耐震補強工事について説明を受け質疑応答。

【質疑応答】

Q 保安院は、追加の海上音波探査を二次元で行うというが、三次元探査は出来ないのか。
保安院 今年二月の調査は、当初、三次元探査を行う予定であったが、波が荒く出来なかった。その代わり、二次元探査を密にして海底の地質断面を調べた結果、三次元探査によらなくても、地質構造が十分把握出来た。今回の調査も、専門家の意見で二次元探査で十分であると判断して測線を決定した。

Q 全国の原子力発電所の解放基盤表面について、なぜ深さが各々異なっているのか教えてほしい。
保安院 毎秒700m以上の硬さを有する岩盤を解放基盤表面という。

岩盤の堅さは原子力発電所ごとに異なっている。解放基盤表面の深さも異なる。柏崎刈羽原子力発電所の場合は、150m〜300mである。全国データは整理して提示する。
Q 中越沖地震の震央が、発電所から23km、深さ17kmというのは誤りではないのか。
保安院 気象庁が震源を特定しなおしたので、確認して報告する。

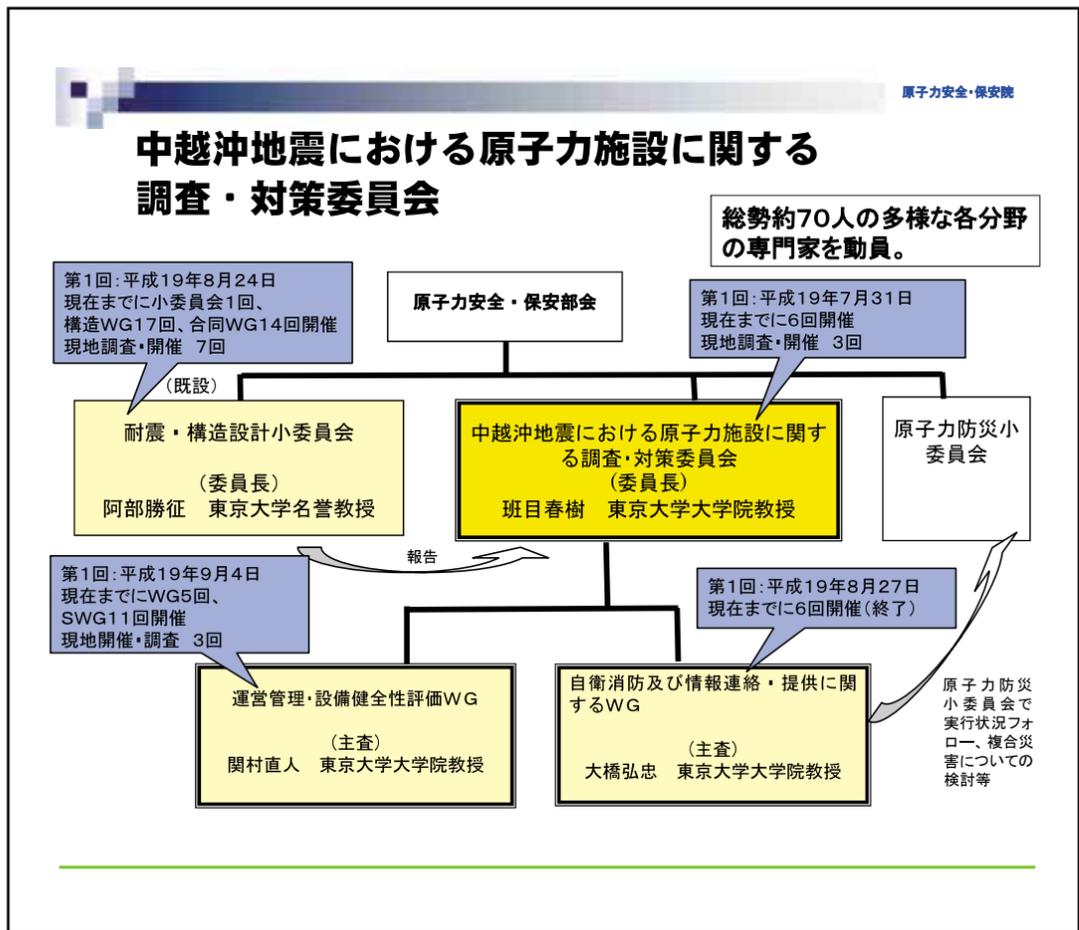
Q 建物は有限要素法の解析で、観測データに近いデータが得られているとのことだが、機器についても解析と加震試験も含めた実測データを比較すれば分りやすいのではないか。
 (注)有限要素法：現象を近似的に解くための数値解析の手法。
東京電力 配管については、何種類か有限要素法による解析を行っている。加震試験のデータがあるが、これから分析するところであり、その結果が出たら示せると思う。

Q 現地の様子と東京電力見解の矛盾事項を、どこに指摘したらよいか。
保安院 指摘が保安院の事務所に寄

せられれば本院に伝える。必要に応じて専門家の意見で、調査の必要があるか検討したい。
新潟県 国の対応で疑問点があれば、県の技術委員会の小委員会などで議論してもらおう。窓口は、原子力安全対策課である。

【各委員からの意見・要望】

●私は、地質の問題に関しては専門家ではないし、過去の議論も知らないが、地質問題の調査・検討状況については、国の原子力安全・保安院の説明は理屈に合っていると感ずる。また、機器の健全性の評価についても、当初、目視点検が中心で不安があったが、脆性破壊について監視試験片を適宜取り出して確認するなど、実際に調べていると聞き、合理的であると感ずた。
 ●東京電力の調査や報告書、説明から現地の事実を読み取れない。国や県は現地の事実を正確に把握し判断をする責任がある。今後、調査事実を具体的に指摘したい。
 ●東京電力がホームページで公開する資料について、数値が判別しにくいものがある。きちんと数値が読み取れるような工夫をお願いしたい。



トピックス

新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会 傍聴

日時 平成20年8月4日(月)於：新潟市
 議題 (1)原子炉再循環系配管及び炉心シールドのひびの調査結果と今後の対応について
 (2)6号機制御棒結合不良の原因の調査結果について
 (3)7号機低圧タービン動翼の損傷について(報告)
 ●報告(中越沖地震関連)
 ○点検・評価の進捗状況について
 ○小委員会の検討状況について
 傍聴委員 1名

新潟県技術委員会(小委員会)傍聴

日時 平成20年6月19日(木)於：新潟市
 議題 (1)各号機の点検・解析の進捗状況について
 (2)柏崎刈羽原子力発電所7号機の中間とりまとめ(建物・構造物編)等について
 (3)柏崎刈羽原子力発電所7号機の今後の設備健全性確認等について
 傍聴委員 1名

設備健全性・耐震安全性に関する小委員会(第5回)

日時 平成20年7月24日(木)於：新潟市
 議題 (1)柏崎刈羽原子力発電所の健全性評価について
 (2)硬さ測定結果について
 傍聴委員 1名

地震・地盤に関する小委員会(第6回)

日時 平成20年6月11日(水)於：新潟市
 議題 新潟県中越沖地震の観測記録と基準地震動について
 傍聴委員 3名

地震・地盤に関する小委員会(第7回)

日時 平成20年6月23日(月)於：新潟市
 議題 (1)柏崎刈羽原子力発電所周辺の地質調査結果について
 (2)新潟県中越沖地震の観測記録と基準地震動について
 傍聴委員 2名

地震・地盤に関する小委員会(第8回)

日時 平成20年7月14日(月)於：新潟市
 議題 新潟県中越沖地震の観測記録と基準地震動について
 傍聴委員 2名

